

令和6年度静岡市協働パイロット事業 課題テーマ一覧

令和6年度協働パイロット事業では、計6件の課題テーマを提示します。

以下の内容をご確認いただき、静岡市の抱える課題解決のため、貴団体の力をお貸しください。

No.	課題テーマ
1	情報弱者のための教え合い支え合いの場づくり
現状	情報化社会の発展により、デジタルを使いこなす層と高齢者や障がい者などデジタル技術の利活用が限られる層との間に情報格差が広がっています。デジタルリテラシーの低さが参加の妨げとなり、利活用が十分に行われずデジタル化の恩恵を受けられていません。 これまで、静岡市では市民向けの講座を実施していますが、より地域全体にデジタルリテラシーを広げていくために、お互いに教え合う共助の仕組みが重要となってきています。
目指す姿	情報弱者が気軽にデジタル技術を取り入れ、全ての層が情報化社会に参加することでデジタルの利便性を享受し、かつ地域社会との結びつきが深まる環境を目指します。
課題解決すべき	デジタルリテラシーの向上のためには、デジタル技術の継続的な利用が不可欠です。しかしながら、デジタル技術に対して前向きな意識を持つための楽しさや学びの喜びを気軽に体験できる環境が不足しています。
事業期待する	高齢者や障がい者などの情報弱者が、気軽に参加できるイベントや場の提案を募集します。各所で行われているような、講師によるデジタル機器やサービスの講習会ではなく、参加者の具体的な課題に柔軟に対応し、時には参加者同士が教え合うような共助の場を期待します。
留意点等	単発のイベントや継続性のない交流会にならないようにしてください。 情報弱者が参加しやすいようリアルな場を設定するようにしてください。
問合せ先	担当課名: デジタル化推進課 地域デジタル化推進係 電話: 054-221-1341 メール: digital-suishin@city.shizuoka.lg.jp

No. 2	課 題 テ ー マ セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツの啓発
現 状	セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(略称:SRHR)は、ジェンダー平等教育や包括的性教育の土台となる重要な概念ですが、あまり市民には知られていないという現状があります。
目 指 す 姿	多くの市民がSRHRの言葉だけでなく、その考え方で理解することで、ジェンダー平等や包括的性教育の一層の推進につながることを目指します。
課 題 解 決 す べ き	一般の市民があまり接することのないSRHRという言葉と、その概念や重要性について、興味を持ってもらい、わかりやすく解説をする手段やツールが必要です。
事 業 提 案 期 待 す る	SRHRが広く知られ、性別を問わず自分らしくいられる社会を作るために、まずは若い世代への啓発が重要であると考えます。中学生～大学生を対象とした啓発ツール(パンフレットやホームページ、YouTube 動画等)の作成を期待しています。また、啓発ツールの作成には伝える対象者の目線が入っていることが効果的であると考えため、作成過程に若い世代が関わってくるような手法を望みます。
留 意 点 等	<ul style="list-style-type: none"> ・作成する内容については、専門家の監修を受けるとともに、男女共同参画・人権政策課と相談しつつ、事業をすすめてください。 ・上記で開発した啓発ツールについては、関係する講座等で配布や放映等、継続的に静岡市が使用できるようなものを想定しています。
問 合 せ 先	担 当 課 : 男女共同参画・人権政策課 男女共同参画・人権政策係 電 話 : 054-221-1349 メ ー ル : sankaku@city.shizuoka.lg.jp

No.	課 題 テ ー マ
3	職場における運動・スポーツの普及促進
現 状	<p>静岡市民におけるスポーツ活動の現状として、働く世代(特に 30～40 代の女性)のスポーツ実施率が低い傾向です。また、全年代でスポーツを全くしない人の理由のうち、「時間がない」が最も多いです。</p> <p>※令和3年度静岡市スポーツ活動・生涯学習に関する市民意識調査による</p>
目 指 す 姿	<p>市民それぞれがライフスタイルに応じて、生活の中で気軽にスポーツ活動を楽しみ、健康で豊かな生活を実現している状態を目指します。</p>
課 題 解 決 す べき	<p>市民一人ひとりのライフスタイルの多様化や価値観の変化に対応したスポーツの機会提供が求められるとともに、スポーツを日常的に取り入れるための意識改革が求められます。</p>
事 業 提 案 期 待 す る	<p>育児や仕事などで多忙になりやすい世代をターゲットに、職場で気軽にスポーツ活動を楽しむ習慣を身につける事業の提案を募集します。</p>
留 意 点 等	<p>事業の企画や開催場所、広報媒体等の調整に際しては、スポーツ振興課と相談の上、事業を進めてください。</p>
問 合 せ 先	<p>担 当 課 : スポーツ振興課 企画係 電 話 : 054-221-1183 メ ー ル : sports@city.shizuoka.lg.jp</p>

No. 4	課 題 テ ー マ 猫と人の共生を目指して
現 状	<p>静岡市では野外にいる飼い主のいない猫を減らすため、飼い主のいない猫の不妊手術への補助金制度や、地域猫活動への補助金制度を制定し取り組んでいます。また、猫の殺処分数を減らすために、野外で親猫から離れ生きていけない飼い主のいない子猫(生後3か月未満)や、やむを得ない事情で飼い主から引き取った猫については引き取った後に性格や健康状態を確認し、飼い主さん候補の方へ譲渡を実施しています。</p>
目 指 す 姿	<p>静岡市内で飼い主のいない猫がいなくなること、また安楽死される猫がゼロになることを目指しています。</p>
課 題 解 決 す べ き	<p>飼い主のいない子猫のうち、乳飲み猫は人工哺乳とこまめなケアが必要となりますが、これらを実施できる方(ミルクボランティア)が不足しています。また、子猫や飼い主から引き取った猫については飼養スペースの確保、及び新たな飼い主候補の方が必要となります。</p>
事 業 提 案 期 待 す る	<ul style="list-style-type: none"> ・ミルクボランティア及び猫の飼い主募集についての広報活動 ・ミルクボランティアや、子猫・成猫を預かり譲渡できる方の募集 ・上記の内容を受けていただくために、行政がすべきことについてのアンケート調査等
留 意 点 等	<p>広報活動における事業の企画、開催場所、広報媒体等の調整に際しては、動物指導センターと相談の上、事業を進めてください。</p> <p>ミルクボランティアや譲渡していただける方については、動物指導センターと相談のうえ依頼するかを決定いたします。</p>
問 合 せ 先	<p>担 当 課:動物指導センター 動物管理係 電 話:054-278-6409 メ ー ル:dobutsuc@city.shizuoka.lg.jp</p>

No. 5	課 題 テ ー マ 地元大学と連携した地域力向上プロジェクト
現 状	<p>大谷・小鹿地区では、日本平久能山スマート IC のポテンシャルを活かした開発が進められている。このハード整備にあわせてソフト事業を展開するため、産学官民で構成される「大谷・小鹿地区まちづくり検討会議」を発足し、「大谷・小鹿周辺地区まちづくりビジョン」の策定を進めています。</p> <p>開発エリアの周辺は、昭和後期に造成した丘陵地の住宅団地で高齢化が進展し、自治会活動の継続が困難になったり、コミュニティが希薄化する等の問題が生じています。加えて、今後開発エリアに進出する企業の「働く人・訪れる人」と十分な交流がされず、開発エリアと周辺がうまくつながらない状況が想定されます。また、静岡大学が立地し、多くの学生が通学・居住していますが、地域活動に関心がなく、地域住民との接点もないため、災害時のみならず日常生活においても孤立しています。</p>
目 指 す 姿	<p>まちづくりビジョンで掲げられている「ひとがつながり、ゆたかな暮らしが続くまち」の実現に向け、「地域資源を活かした、顔の見える未来のコミュニティづくり」を目指します。</p>
課 題 解 決 す べ き	<p>「ひとがつながり、ゆたかな暮らしが続くまち」の実現に向け、開発エリアと開発エリアの周辺が互いを受け入れ、人・活動・エリアがつながることが必要であるため、その下地となる地域と大学生が交流できる機会を創出し、持続的に活動できる体制をつくることが求められています。</p> <p>大学生が地域に関心を持ち、積極的かつ主体的に地域で活動することで、自治会が活性化され、顔の見えるコミュニティの形成が促されることが求められています。</p>
事 業 提 案 期 待 す る	<ul style="list-style-type: none"> ・地元大学と連携し、大学生と地域住民が気軽に関わり合うことができる交流プラットフォームを目的とした拠点の設置・運営。 ・地元大学と連携し、大学生が地域住民と連携しながら地域に貢献することができるようなプロジェクトのマネジメント。
留 意 点 等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業終了後も継続した取組みになることが望まれます。 ・多額の費用や時間を要することが想定されます。 ・地元大学(静岡大学を想定)との連絡調整が必要となります。 ・自治会との連絡調整が必要となります。
問 合 せ 先	<p>担当課：大谷・小鹿まちづくり推進課 まちづくり推進係</p> <p>電 話：054-238-1981</p> <p>メール：endou_ct@city.shizuoka.lg.jp</p>

No.	課 題 テ ー マ
6	みどり(公園・緑地)を活かしたまちづくり人材の育成支援事業
現 状	本市では、みどり(公園・緑地)を地域の価値を高める重要な資産として捉え、新たな価値の創出や社会課題解決に取り組む活動を市民協働により進めていきたいと考えています。 一方、令和 3 年度緑の基本計画改定基礎調査では、みどりのまちづくり活動に「参加している」「今後参加してみたい」人の割合は回答者の約 3 割と低い状態にあります。
目 指 す 姿	みどりに関する知識・技術・熱意がある人材(以下、「みどりの専門人材」という。)やその活動の場が増えることで、みどりの多様な機能を活かしたまちづくり活動の実現やみどりの専門人材のネットワーク化が進み、社会課題解決の場としてみどりがその役割を発揮している姿を目指しています。
課 題 解 決 す べ き	市民のやりたいという思いに寄り添い、活動の立ち上げや持続可能な運営を支援できる伴走者(以下、「みどりのコーディネーター」という。)の存在が求められます。 みどりのコーディネーターの持つノウハウをみどりの専門人材となりうる市民が学ぶことができる機会の創出が求められます。
事 業 提 案 期 待 す る	まちづくりにおける公園・緑地の重要性、地域課題の解決手法、協働関係構築のノウハウ、広報発信技術など、みどりを活用した持続的な活動を実現するための学びの機会を提供することにより、みどりの専門人材の養成が期待できる提案を募集します。
留 意 点 等	みどりのコーディネーターは単一の人材にこだわらず、上記「期待する事業提案」における学びの機会を提供する主体であれば団体(複数人)でも可とします。
問 合 せ 先	担当課:緑地政策課計画係 電 話:054-221-1432 メール:ryokuchi@city.shizuoka.lg.jp

「課題テーマ」のほかに、「自由テーマ」に関する事業も募集しています！

いずれのテーマを選択しても、採択に関する審査に影響はありません。

「自由テーマ」は、分野を問わず、提案団体の皆様に自由に社会的課題の解決のための協働事業を提案いただく部門です。